

青　　い　　鳥

〔10月号〕

～こどもの心は行事の中でも育まれます～

「暑さ寒さも彼岸まで」といわれますが、暑かったあの夏も過ぎて、涼しさとともに秋の訪れを感じさせる季節になりました。

二学期の最大行事である「運動会」を間近に控えて、園児たちは日々運動会の練習に元気に励んでおります。

そこで今回は「運動会」と「敬老精神」についてお話しさせていただきます。まず運動会という行事ですが、その性質上、みんなが目標に向かって団 thểで行動しなければならない競(演)技が多いため、個々のわがままは許されません。

最初は「こんな事やりたくない。」とか「楽しくない。」などと思う子どももいるでしょう。でも集団生活の中では許されません。

みんなで努力して、頑張ったからこそ「出来た。」という達成感！この達成感こそが次への「頑張る心」と「協調性」そして「社会性」を養うのです。

ですから園では、繰り返し繰り返しやらせながら経験を積みさせます。そして集団生活の中の約束ときまりを覚えさせます。最初は出来なかった子どもも次第にできる様になり、みんなが目標を達成したときに、子どもの心は開放されます。そしてこの開放を繰り返すことによって、より子どもの集中力が養われます。運動会とは、そのような大切な目的がある行事なのです。

9月21日は「敬老の日」で、多年にわたり社会に尽くされてきたお年寄りの方を敬愛し、長寿をお祝いする日として定められた祝日ですね。

複雑化する社会・核家族化が進む中で、今の子どもたちはお年寄りにどのような意識や感情を抱いているのでしょうか。おじいちゃん、おばあちゃんが家族の中にいらっしゃるご家庭もあれば、そうでないご家庭もお有りでしょう。

そこで当園では、年長児に対しお年寄りを大切にする心・思いやりの気持ちを育ませようと、区内にある高齢者施設を訪問し、合唱や手作りしたコスモスの花などをプレゼントして、ご高齢者の皆様との交流を深めさせる体験を行っております。

今回で5年目となったこの交流。終了後の子どもたちを見ますと、どの子からも「心の中に大切なものが芽生えた」様な感じを受けます。

幼児期だからこそ貴重な体験をさせ、心優しく思いやりの気持ちを持つ子どもに育ててあげていきたいもとを考えております。

園長 糀 山 恭 子